

「心を澄ます毎日。」青年会員が集結

おやさとふしん青年会ひのきしん隊結成 70 周年記念 第 98 回天理教青年会総会が開催

10月27日、「おやさとふしん青年会ひのきしん隊結成 70 周年記念 第 98 回天理教青年会総会」が本部中庭にて開催された。本愛分会からも青年会員 41 名（ほか一般参拝者 69 名）が参加。中山大亮青年会長の告辞に続き、真柱様のメッセージを拝聴した。

日差しが強まり、汗ばむほどの快晴となった10月27日、国内外から大勢の青年会員たちが本部中庭に参集した。式典では礼拝、開会宣言の後、中山大亮青年会長の告辞に立たれた。冒頭、中山会長は、青年会の基本方針「心を澄ます毎日。」——ほこりを減らし、誠を増やす」について、自身の経験の中から得た気づきをもとに、日常の中で実践していくための要点をお話くださった。その中で、「ほこり」は毎日知らず識らずのうちに積んでしまうものであり、「誠」にはいろいろな意味があるが、基本方針では人が魅力を感じる心遣いや行



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

年間活動目標
今日を陽気に。
つながら、
つなげる。



いのことを指すとお示しください、自分の心に矢印を向けることによって自身のほこりに気付き、さらに、そのほこりを減らすために教えに沿う通り方をするこにより、誠を増やすことができる」と述べられた。続いて、中田善亮表統領が代読した真柱様メッセージでは、「おやさとふしん青年会ひのきしん隊」が今年、70周年を迎えた事に触



会食後に詰所講堂で撮影された記念写真

れ、伏せ込むことの意義とその重要性をお説きくださった。その後は、青年会員が「あらきとうりよう指針」を唱和し、最後に『天理教青年会々歌』を斉唱した。
本愛分会
式典後、詰所で会食
総会には本愛分会から青年会員41名が参加。その他、一般参拝者の姿も多く見られた。式典後は、本愛詰所で大教会長を囲んでの会食が行われ、参加者一同は和やかな雰囲気の中で親睦を深めた。(写真左)

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
女子青年例会	15日	午前10時
鼓笛隊練習日	15日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
婦人会例会	20日	午前10時
本部月次祭	26日	午前9時
大祓式	31日	夕づとめ後
習字のOKEIKO		華水教室
5週目を除く毎週木曜日		

12月のこよみ

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



年祭活動も最後の一年を前に、さまざまな話を耳にするようになりました。たとえば先日、毎日十二下りのてをどりをつとめることを心定めた夫婦の話を聞きました。その夫婦は、初めは一緒につとめていたものの、途中で子供が泣くなどして奥さんが子供をあやしに席を外すことがあり、その回数が増えるにつれ、夫のほうがそれを咎めるようになったそうです。「それで毎晩けんかになってしまいました」と話していました。



また、ある教会長さんは年祭活動としておさづけの取り次ぎ回数の心定めをし、毎日さまざまな人に取り次いでいるそうです。ある時、

その日は取り次げる人がいなくなったので知り合いの教会に行

って取り次がせてほしいと頼んだところ断られてしまい、「取り次がせてほしい」

「いや、取り次がなくていい」の押し問答で口論になったそうです。

どちらも、真剣につとめようとしている本人には悪いですが、まさに本末転倒と言えるでしょう。

心定めも大切ですし、毎日真剣に御用をつとめようとするのも大切。でも、それが元で陽気ぐらしから離れてしまつては、元も子も

ありません。思い通りになる

一方で、「こういうふうにはなりたくない」といくら本人が思つてもなつてくる、起こつてくるということがあります。

教祖のお言葉として伝えるものに次のようなものがあります。

めい／＼おもふ事が、おもふやうにならん。しようとおもふ事がならずして、しようまい、なるまいと、おもふこともなつてくる(中略)そのふそくをないやうに、おもひ通り、おもわくどほりかなへてやつたら、それで十分やろ(中略)十のかずなら、一ばんしまひの十目のをしへ。すなはち、とめのをしへや。だめのをしへやで。(諸井政一『正文遺韻』より)

自分の思つたことが思つたようになる。言つたこと

がその通り実現する。親神様・教祖の御心に適つた通り方、心の使い方をすれば、そのような守護を与えてやろうと、おっしゃつてくださつていられるのです。

「とめの教え」「だめの教え」というのは、この教えがそのご守護をいただける教えであり、私たちが目指すべきは、まさにその一点にあると思います。

「今日を陽気に。」という本愛大教会の活動目標も、なぜ陽気に歩むのかと問うならば、万事不足なく、思つたことが思つたようになるようなご守護をいただくため、と言えるでしょう。

おさづけを取り次ぐこと、十二下りのてをどりをつとめることも同じです。お道におけるすべての信仰実践は、万事不足のない人生をご守護をいただくためにあるというのを、忘れずにいたいと思います。(11月13日祭典講話より)

年末年始の行事

◆おぢば◆

別席 12月28日から元旦まで休み。2日から通常通り。

元旦祭 1月1日午前5時から本部神殿にて執行。

お節会 1月5日より7日までの3日間、いずれも午前10時から午後1時まで。

◆大教会◆

餅つきひのきしん

28日 午前7時30分

年末清掃・迎春準備

29日 午前10時

大祓式

31日 夕づとめ後

立教188年

元旦祭

1日 午前5時

教会長年頭連絡会

13日 祭典後

教理随想

言わん言えんの理を探る



今年パリでオリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、多くの日本人アスリートが活躍しました。次のオリンピックは四年後、アメリカのロサンゼルスで開催されます。

一般の人々にとってオリンピック・パラリンピックは、開会式から閉会式までが競技大会ですが、準備を進める組織委員会などの関係者にすれば、地元での開催が決まった時から、すでに大会の期間に入ったといえるでしょう。そう考えるとロサンゼルスでは、準備

に忙しい四年間が始まったことになりました。準備が万全に整っているから本番もうまくいく。これはオリンピックに限らず、大きなイベントから、運動会などの身近な行事まで、あらゆる催しにいいえることで、表側と裏方が一つになつてこそ成功につながります。これと同じことがおたすけにもいえるのではないのでしょうか。

表側では、悩み苦しむ人に陽気ぐらしの教えを言葉や文字で伝えると共に、おつとめとおさづけで身上平癒や事情解決を祈る。一方、裏側では蔭の伏せ

込みに徹しながら、周囲に起きる出来事を喜んで受け入れる「たんのう」の心を

作る。これが「二つ一つが天の理」という教えに適う道であり、おたすけが実を結ぶためには、口と心と行いを一致させることがたいへん重要になります。

特に自分の家族のおたすけに当たったり、我が子に信仰の喜びを伝える際には裏側の心使いが重要です。日々の丹精や布教伝道が空回りしないように注意しなくてはなりません。

初代会長様は、誰も見えないところで陰徳を積む道の大切さを強調されました。植物でいえば、地表からは見えない根に栄養を与えることといえます。

しかし、陰徳だけで身近な人々、特に家族に信仰の喜びが伝わるかというところ

うではありません。我が家が天理教を信仰しているのはなぜなのか、自分が人だすけに心尽くすのはなぜか。また人の幸せとは何なのか、という教えの要諦を、自分の行いと言葉を使つて家族に伝えてこそ、そこに陰の徳積みが活きて、信仰の喜びが伝わっていく。この「二つ一つの理」を承知しなくてはならないと思います。

■どうでも伝える情熱を

お道の信仰をしていない世間の人と話をしているとしばしばこんな言葉を聞きます。「うちのおばあちゃんが昔、天理教だった」とか、「おじいちゃんの代ま

では熱心に天理教を信仰してた」等々。その時に思うのは、もしその信仰がまっ

ようぼく家庭で縦の伝道が円滑に進んでいれば、お道の姿も現在とは格段に違っていることでしょう。

もちろん、表現の仕方や言葉の使い方は人それぞれで、うまく伝えられる人もいれば苦手な人もいます。ですが大切なことは、内に秘めた信仰心を相手にどうでも伝えるという情熱です。伝えるのに早すぎることはありません。ですから、

自分の子や孫が小さなうちから、一緒に教会へ参拝することを心がけ、信仰の喜びを語り合つて次代へ道をつないでいく。これも教祖年祭へ向かう大切な歩み

で、論達第四号でも強く促されている実践の要です。教祖にご安心いただくために、しっかりと信仰を次代へつないでいきましょう。

このにんもいつくまでもへらんよふ まつだい つゝききれぬなきよふ

【第119回】 常におたすけを意識して 信仰の喜びを語る努力を

公式サイトと YouTube をご活用ください!!

- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ
- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

10月のおさづけの理拝戴者
永田光希(本心徳)

9月の初席者
品田心羽(本名)

お出直し

山中和夫氏(本心部属・本心城分教会三代会長)
11月11日に出直された。
享年85歳。告別式は11月12日午前9時半より、加藤義教・本蟹江分教会長を齋主として執り行われた。

大教会日誌

令和6年10月25日～令和6年11月24日

10月

26日 本部秋季大祭

12日 常任役員会議

27日 おやさとしん青年会ひのきしん隊結成

13日 月次祭

70周年記念第98回天理教青年会総会

祭主 大教会長／扨者 田中新一、松浦道太郎

(於・本部中庭)

指図方 大橋進／賛者 山本治行、山内光正

31日 常任役員会議、役員会議

◇祭典講話 大教会長

11月

青年会例会

1日 入社祭

14日 布教実修所

祭主 大教会長／扨者 中島功雄、松原悟

16日 むつみ会例会

指図方 吉田正信／賛者 坂倉敏男、杉下和平

17日 女子青年例会

◇祭典講話 山本正太郎

こども食堂MOGU

2日 よぶき会例会

20日 婦人会例会

おつとめ・十二下りてをどり、連絡会

(本部参拝、詰所清掃ひのきしん)